

新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業 完成イメージ

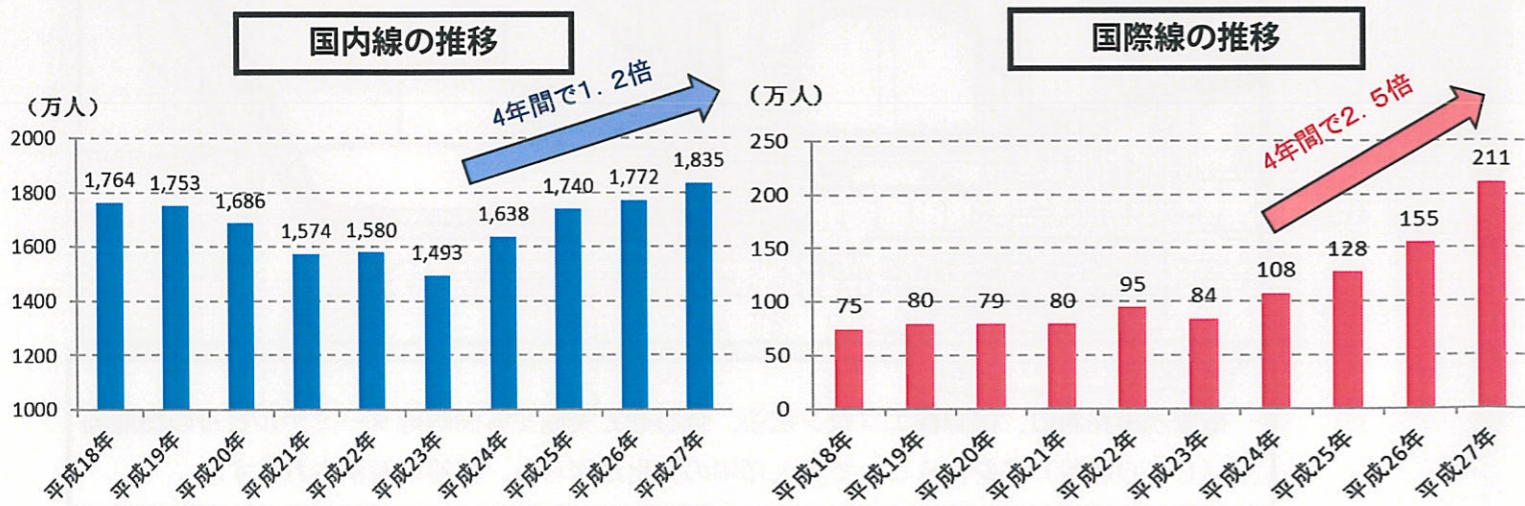
●現況



●完成イメージ



新千歳空港旅客数の推移



新千歳空港

国際線ターミナル地域再編事業



新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業

事業の目的

新千歳空港は、2本の3,000m滑走路を有し、年間約13.5万回の離発着が行われ、年間乗客数は開港後初めて2000万人を超え北海道を代表する空の玄関口となっています。

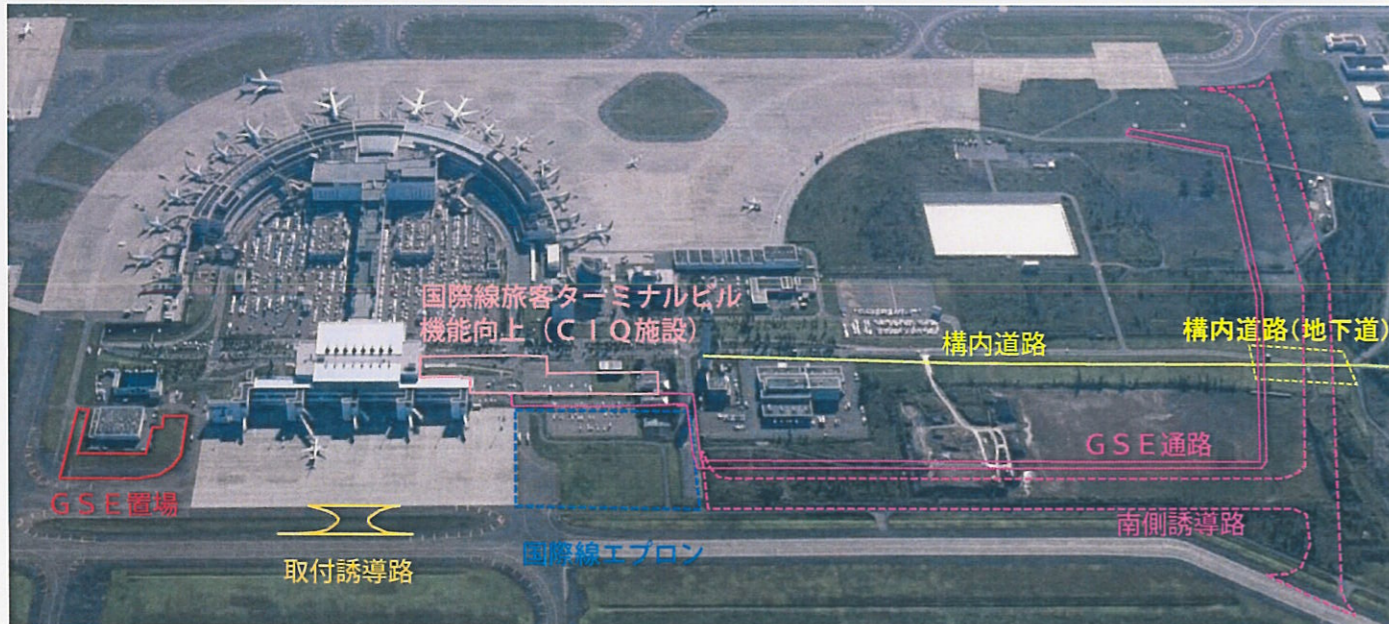
近年、国内LCCの就航による国内線の旅客数増加に加え、国際線は韓国や台湾、中国を中心とするアジア圏観光客を中心に、北海道観光の人気の高まり国際線の利用者が大幅に増加しており、国際線ローディングエプロンや誘導路、国際線ターミナルビルの各施設において混雑等が発生している状況です。

このことから、国際線エプロンの拡張、南側誘導路の新設、国際線旅客ターミナルの機能向上（C I Q施設）等を実施し、空港の利便性向上や航空機の慢性的な遅延緩和等を図ることを目的としています。

事業の概要

整備施設

国際線エプロン、南側誘導路、国際線旅客ターミナルビル機能向上（C I Q施設）、取付誘導路、構内道路、G S E置場



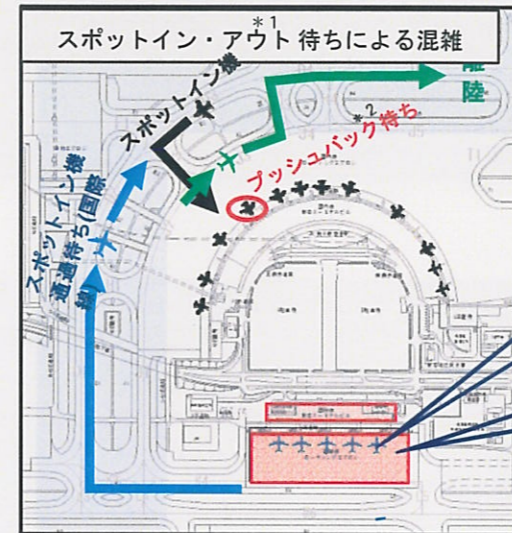
整備箇所図

新千歳空港の機能強化

新千歳空港における国際線需要の増加に伴う航空機導線、国際線エプロン及び国際線ターミナルビルの混雑の解消並びに今後も増加が見込まれる国際線需要に対応するため、国際線エプロン拡張、南側誘導路新設、国際線ターミナルビル機能向上（C I Q施設）等、国際線ターミナル地域の再編事業を平成28年度から実施しています。

新千歳空港の機能強化

■ 現状と課題（混雑状況）



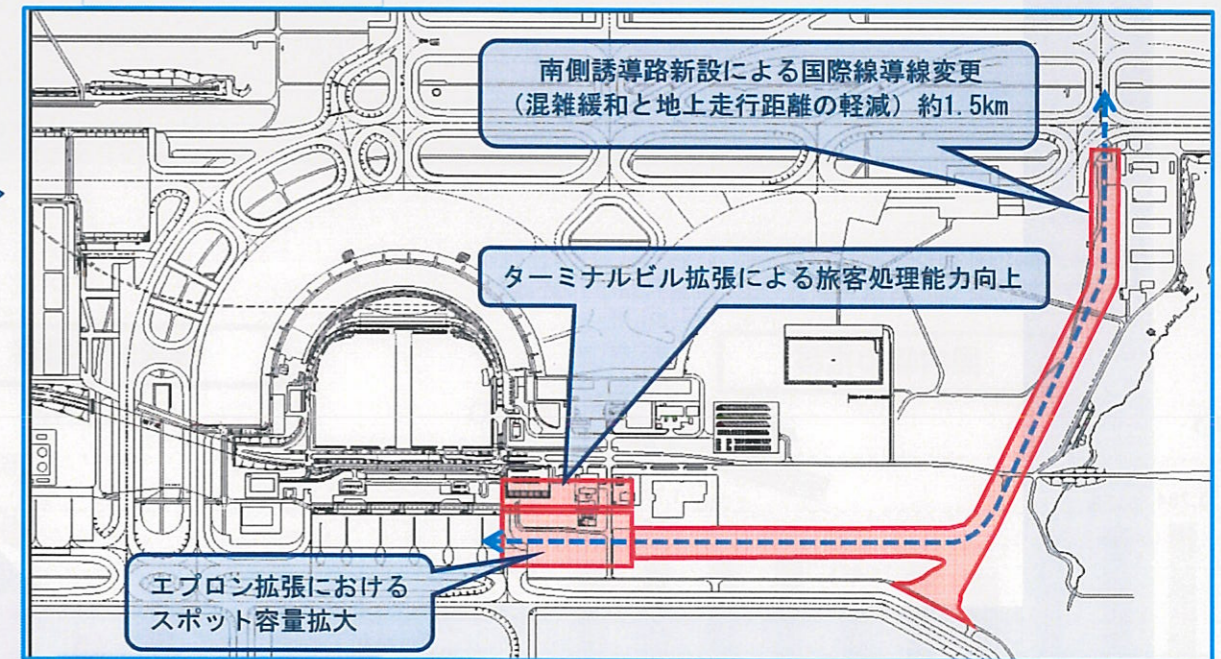
混雑する国際線ターミナル



国際線スポットの混雑

- *1 スポットイン・アウト：航空機が誘導路等から目的の駐機場（スポット）に入る（出る）こと。
- *2 プッシュバック：駐機している航空機が駐機場から離れて誘導路及び滑走路等に向かう際、航空機に特殊車両を接続して、その動力により後方へ押し出して移動させること。

■ 整備イメージ



課題解決に向けた施策

南側誘導路新設、国際線エプロン拡張、合わせて実施する国際線ターミナルビルの機能向上（C I Q施設）等を行うことで受入環境の強化が図られ、混雑が解消されます。